

夜闇に浮かび上がる光景 その光景を太陽は知らない

太陽の光の指す昼とは異なり、夜の闇は日中の光景を何もなかったかのように包み込む。ライティングによって映し出される光景とその魅力。

撮影◎塗戸 美保 写真提供◎Heaven's Garden

光

*My Garden Story
Part.4*

その光が映し出す光景

一日の半分は夜である。太陽の無い闇の世界に光が灯る。そこに映し出される光景を見てそこには何を感じるのだろうか。ライトの光は日中の太陽光とは異なり、闇の中で映したいものだけを映す。そしてそこに新たな影を作り出す。昼には見ることの出来なかつたその影は単に暗いのではなく、影の持つ深みのある魅力を浮かび上がらせる。

またその光と影の演出により素材の持つ

魅力は昼間に見たものとは違う強い存在感を放ち始める。ゴツゴツとした岩のテクスチャ、柔らかく揺れる木々の枝葉やしなやかな幹。それらは昼の世界でも見えていたが、夜は更に強調される。太陽光ではない光を得た素材は新たな影を得て、その影は別の物に投影されることで更に素材の存在感を増していく。

太陽の光に映し出される光景、それはある一つの側面から見た光景である。そして闇の中に浮かびあがる光景は、その空間を持つ新たな顔を引き出してくれる。

そこに浮かび上がる姿

夜が待ち遠しくなる

ライティングによって その空間を切り出す

ライトの光の無い夜、それは全てを闇で
覆う漆黒の世界である。そして闇の中だから
は異なる演出ができる。



1



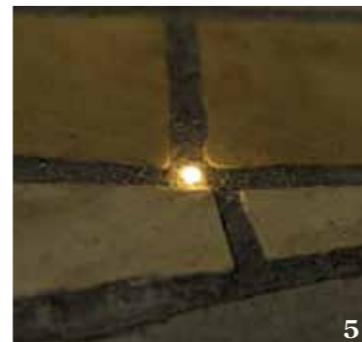
2



3



4



5

1. 美しい円形が浮かび上がるエントランス
2. サンゴ石の素材感が更に強調されている
3. 強力なLEDライト。角度調整が可能
4. 小さなLEDライトは等間隔で埋め込まれている
5. 普段は透明なのでどこにライトがあるか分からない



6



7



8



9



10



11

光
My Garden Story Part.4

一口にライティングといつても種類方
法などは様々である。映し出したい場所
用途、器具の選定など色々な角度から考え
ることができる。

下の写真における6は門柱そのものがラ
イトになっている。エントランスのスペー
スがあまり広く取れない中で何か象徴的な
ものを作りたかった。通常は門柱にライト
がついているという考え方をするのだがこ
れは逆で、ライトに門柱の機能が備わって
いる。表札、インターホン、ポストをライ
トの中央に設置し、ライトを上下に設置し
た。インテリアにおける個性的なスタンド
ライトの在り方に近い考え方で、これだけ
でエントランスは非常に個性豊かなものと
なる。7は植栽灯でスポットライトによる
シャドーライティングである。窓ひとつ無
い大きな壁面だからこそ、大きな樹影を映
し出すことができる。8は埋め込みLEDラ
イトである。白いタイルとサンゴ石のコン
ラストが門周りを象徴的に映し出していく
。9は植栽灯を壁の後ろに配したもの。
ガラスブロックが埋め込まれているのでガ
ラスブロックがライトの様な効果を出す
している。10はポールの高い位置にライト
を設置した例。シェードが光の幕となり反
射し庭全体を照らしている。ライティング
はそこにある様々なものの新たな魅力を引
き出してくれる。



6. 光がアプローチの石を艶のあるものにする
7. 樹影が白い壁に枝葉をも映し出している
8. 埋込ライトは日中、見えないのが面白い
9. ガラスブロックがライトの様な効果を出す
10. シェードの反射光がライトの効果を増す

夜と昼との演出の最大の違い。それはラ
イトの光の当たるところしか映し出されな
いことにある。通常、日中は視界に入る全
てのものを映し出す。それは余り見たいも
の、そうでないものの優先順位をつけるこ
となく平等に見えてしまう。しかし夜闇の
世界では映し出したいものだけをはつきり
と映し出してくれる。

ライティングは暗闇というステージに一
筋の光を落とし空間を切り出していく。そ
の空間を違った角度からみると別の魅力が
見えてくる。

光、家、暖かさ

その中で暮らしたい



本物を大切にする
エクステリア・
ガーデニングの専門店です。



ヘブンズガーデン代表
柿崎 浩司

資格：二級建築士
インテリアコーディネーター
趣味：料理・仕事
フラワーアレンジメント

2003年テレビ東京系「TV
チャンピオン（ガーデニング
王決定戦）」に登場



HEAVENS GARDEN
ヘブンズガーデン
〒 252-0813
藤沢市龜井野 1515
Tel:0466-90-0555

0120-08-6658
www.heavens-garden-co.jp

検索



1. 優しい光に包まれるエントランス
2. 自然石の温もりが光から伝わってくる
3. ブルメリアの模様が掘り込まれたライト



2

3

光
My Garden Story
Part.4

ライティングによる光と影 そして闇という美しきもの

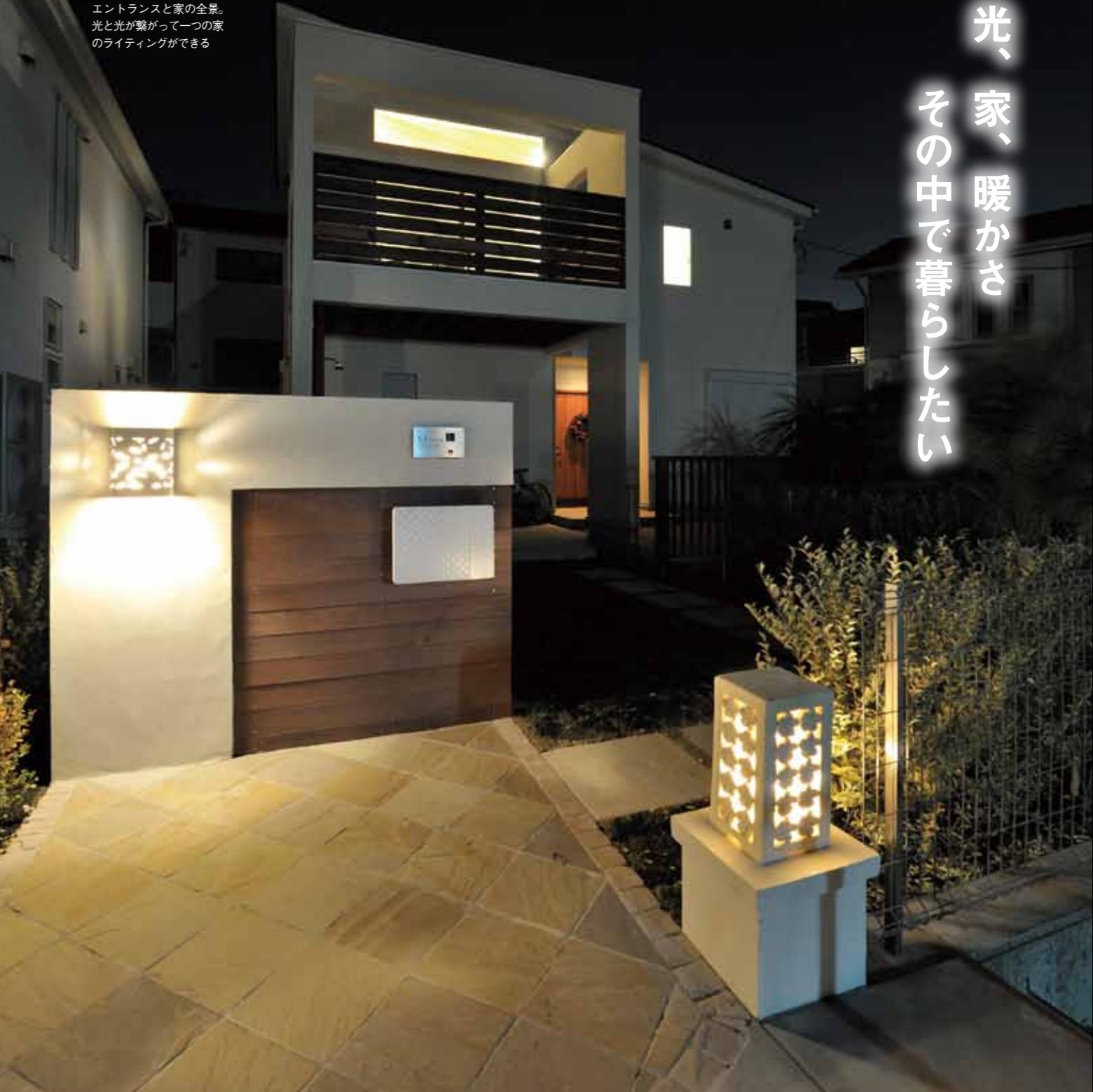
光の演出。それがライティングである。

ライティングは光を投影し影を作り出すものである。その中で重要なのは闇の部分、光の当たらない部分でもある。全てに光を当てれば良いという事でもなく、光量のバランスに保つことより光を楽しむことが出来る。そして闇の美しさも感じられる。夜は暗いものだからこそ光は暖かい。

ライトの光はその家の灯りであり、ある種の安堵感を感じられるものだ。夜、家に着いたとき、そこに光を感じたときにその安堵感が生まれるのではないか。色々な方法、器具もあり演出方法もある。ライティングはどう見えるかだけでなく、心にもその光を灯してくれるのかかもしれない。

エントランスと家の全景。

光と光が繋がって一つの家のライティングができる



な家は素敵だ。

交わってその空間を演出している。

家の窓から漏れる光と一体となるエントランスのライティング。エクステリア、ガーデンのライティング、その家の一部であり、それは家そのものを優しく包んでいる。ここに立つと優しい気持ちになれる。そんな家は素敵だ。

エントランスの両端に設置されたバリ製のパラストーンといつ砂岩のシェードのライトはその隙間からこぼれる優しい光を放ち、それは柔らかいシルクのようにエントランス全体を包み込む。アプローチに敷かれた石板の表情が一つ一つ違うこと、生垣の葉の生命の持つしなやかさや板の力強さ、全てを包みこんでくれる。

門柱に配されたブランケットライトにはブルメリアの図柄が掘り込まれており、そこから漏れる光は、白い門柱を照らしながら反射している。またこのライトがあることにより重厚感を増し、エントランス全体を更にシンボリックなものにしている。3つの光はそれぞれに強い個性を持ちながらも交わってその空間を演出している。

家の窓から漏れる光と一体となるエントランスのライティング。エクステリア、ガーデンのライティング、その家の一部であり、それは家そのものを優しく包んでいる。ここに立つと優しい気持ちになれる。そんな家は素敵だ。

帰りたくなる家 そこにある光の温もり

光。そこに光があるだけで思わず顔が綻んでしまう。光とは人が暮らしていく中で非常に重要であり、ある種、人間らしい暮らしの象徴なのかも知れない。

鎌倉にあるじ様邸のエントランスはそこに立つ人の気持ちそのものまで変えてしまう。

エントランスの両端に設置されたバリ製のパラストーンといつ砂岩のシェードのライトはその隙間からこぼれる優しい光を放ち、それは柔らかいシルクのようにエントランス全体を包み込む。アプローチに敷かれた石板の表情が一つ一つ違うこと、生垣の葉の生命の持つしなやかさや板の力強さ、全てを包みこんでくれる。

エントランスの両端に設置されたバリ製のパラストーンといつ砂岩のシェードのライトはその隙間からこぼれる優しい光を放ち、それは柔らかいシルクのようにエントランス全体を包み込む。アプローチに敷かれた石板の表情が一つ一つ違うこと、生垣の葉の生命の持つしなやかさや板の力強さ、全てを包みこんでくれる。